

松前小学校三年生が西公民館見学

3B体操と気功を体験!

松前小学校三年生が社会科教育の一貫として西公民館の見学に来てくれました。館長の説明に続いて、各部屋や施設を見学しました。また、日を変えて各クラス別で3B体操と気功を見学し、いっしょに参加しました。

子どもたちの感想を学年主任の小笠原義先生に聞いてもらいました。

●ぼくは、はじめて3B体操をしました。平村先生がおしえてくれたとおりになりました。



▲みんなで楽しく! (3B体操)

た。だんだんじょうずになったので、楽しく元気ができました。ぼくはわくわくして、時間がたつことを忘れていました。(米澤慎哉)

●3B体操そうは思ったよりむずかしかったです。体がすぐくやわらかくできないと思います。3B体操そうすると、体がやわらかくなると思いました。(西岡沙智)

●3B体操そうは、おもしろかったですよ。楽しい思い出ができました。わらいながらできました。もう一回したいです。(菊池美奈)

●おもしろくて、体があつたかくなってきて、またやりたいたと思います。ぜんぶ知っていたら、お母さんにおしえてあげられると思います。(松田加綱)

●3B体操そうは、とてもおど

▼上手にできるかな? (気功)



る曲についていけませんでした。むずかしくて、自分をわらってしまいました。でも楽しかったです。(奥田健太郎)

●気功は、中国に二千年前からある体そうで、お年よりの人と、いっしょにやりました。ぼくは、はじめてなので、ちよつとつかれました。でも、とても楽しかったです。(赤瀬亮)

●おじいちゃん、おばあちゃんには気功はいいかもしれない。体をやわらかくするし、元気になるからいいです。わたしは、うまかったです。むずかしいけど、おもしろかったです。(遠藤由香里)

今、人権・同和教育では、よりよい人間関係を築くためにコミュニケーション能力が重要視されています。その中でも非攻撃的自己主張という言葉が注目されています。それは相手の気持ちを傷つけることなく、自分の主張を聞き入れてもらうことです。いくら正しい主張でも、相手の気持ちを傷つけてしまうと、受け入れてもらえませんが、私なりの解釈で言わせていただければ、非攻撃的自己主張というのは、「相手と意思をつなぐ言葉」と言えるでしょう。

思いをつなぐ言葉、断つ言葉

松前小学校同和教育推進主任

上河原信雄

人権・同和教育シリーズ 第225回

どんな言葉がけをしますか。たとえば、「どうして、そんなところに花瓶を置いておくの。そんなところに置いたら、倒してしまうのが、どうして分からないの?」

「どこに花瓶を置いたらいいかな。」

その子は、邪魔にならない場所を探して、花瓶を置きなおすでしょう。

「そうだね、次はきつと倒したりしないよ。」

どちらが、思いをつなぐ言葉かは、お分かりですね。

思いをつなぐ言葉を受けて育った子どもは、自分に自信をもって、前向きに生きることもできるでしょう。そして、この子は周りの人に対して、「思いをつなぐ人間」へと成長できるはずです。

私も子どもに対して、「思いをつなぐ言葉」で接することが出来る大人でありたいと願っています。

逆に思いを断つ言葉というのは、「君はだめな人間だ。どうしてそんなにだめなの。」という、非難が込められたメッセージです。

花瓶を倒してしまった子どもがいたとします。皆さんは